

「フォレスター活動民国連携調整会議」通信

＜優良事例の紹介＞ Vol.4 2022.2

フォレスター活動民国連携調整会議は、北海道及び北海道森林管理局の森林総合監理士（フォレスター）等が、市町村等への技術的援助やその他必要な協力を円滑かつ効果的に実施するため、情報共有の徹底と連絡・調整等を図ることを目的に設置しています。

北海道上川郡下川町

地域の林業担い手確保に向けた人材育成

下川町の民国関係機関が連携・協力した活動

＜関係機関＞

北海道旭川農業高等学校、下川町、上川北部森林管理署、上川総合振興局北部森林室 等

背景と経過

現 状

- ・地域の人工林資源は利用期を迎えているが、林業を担う人材が不足している。
- ・上川管内で唯一森林科学科のある北海道旭川農業高等学校（以下「旭川農業高校」という。）では、実際の林業を体験する場が不足している。

問題点

- ・これまでの各機関ごとの取組では、林業の担い手の確保に繋がっていない。
- ・学校の教育だけでは実際の林業をイメージすることが難しいため、林業が将来の職業の選択肢から外れてしまう懸念がある。

課 題

- ・地域の関係機関が連携・協力して林業の担い手を確保する取組が必要。
- ・実際の体験を通して林業をイメージしてもらうためには、地域の林業に精通した関係機関が体験プログラムの作成やフィールドの提供、体験にあたっての指導を行うことが必要。

解決策

- ①将来の林業の担い手となる人材を育成することを目的として、旭川農業高校、下川町、上川北部森林管理署、上川総合振興局北部森林室（以下「4者」という。）が、平成29年5月に実習等で包括的に連携・協力する協定を締結。
- ②4者が役割分担して、旭川農業高校の1年生から3年生まで体系的かつ効果的な実習等を実施し、担い手の育成を図る。

実施の状況と結果

林業技術体験実習の実施

①平成29年から令和元年度までの取組

【実施内容】

時期：5月～9月

場所：下川町町有林

内容：林業技術体験実習は、3学年で林業・林産業の一連の流れを体験することとなっており、これまで1年生が植樹、2年生が保育、3年生が伐採の各体験実習を実施。

1年生：植樹（植樹、コンテナ苗栽培施設見学等） 延べ6日、120名

2年生：保育（枝打ち、除伐、下刈り） 延べ6日、114名

3年生：伐採（標準地調査、主・間伐作業見学等） 延べ6日、115名

②令和3年度取組

【実施内容】

時期：令和3年7月1日

場所：下川町町有林（58林班179小班）

内容：新型コロナウイルス感染症感染拡大の影響により計画が縮小され、3年生の標準地調査実習のみ実施。

3年生：標準地調査（標準地設定、測樹）36名

※実習は、R2は全面中止、R3は3年生に限定して実施。



協定締結式（平成29年5月）



令和3年度の実習の開会



実習にあたっての説明



標準地の毎木調査

【成果・課題】

令和元年度に実施したアンケートから、林業関係の進路（就職・進学）へ進んだ生徒の約80%が、実習をきっかけとして回答していることや、令和元年度の林業関係への就職割合は、実習開始前と比較して増加するなど成果が顕著に現れ始めている。

※ 令和元年度林業関係への就職割合

・実習開始前（H26～H28の3カ年平均）28%

・実習開始後3年目（R1）62%

一方、実習内容の中で、体験以外の見学実習（見て・聞く）のインパクトが弱いことや、悪天候時の効果的なプログラムが必要であるなどが、今後の課題となった。

今後の展開

平成29年度から始まった4者の連携・協力による実習は、旭川農業高校の生徒にとっては、実際の林業を体験する貴重な場となっており、実習がきっかけで下川町内の林業事業体に就職した生徒もいるなど、人材確保に繋がる取組となっている。

今後もこれまでの成果や課題を踏まえながら、4者が連携・協力して、体験実習（新たにドローンの操縦体験やスマート林業機械の紹介等を取り入れるなど）を中心とした地域の林業担い手確保に向けた取組を推進していく。

効果的な造林作業及び格子状防風林の施業方法等を検討

根室地域の民国関係機関が連携・協力した活動

＜関係機関＞

別海町、中標津町、標津町、別海町森林組合、中標津町森林組合、標津町森林組合、根室振興局森林室・産業振興部林務課、根釧東部森林管理署、根釧西部森林管理署 等

背景と経過

現 状

管内は、漁業、酪農が基幹産業のため林業従事者が少ない上、高齢化しており、林業の担い手確保に苦慮している。また、格子状防風林の多くが伐期に達している。

問題点

林業の担い手確保については、現場条件等過酷な作業環境により、若年者が林業への就労を敬遠している。
格子状防風林については、隣接する農地・公道へ与える影響や保安林の指定施業要件など施業への制限がある。

課 題

造林等作業の軽労及び効率性のシステム化が必要。
格子状防風林の施業方法の確立が必要。

解決策

- ① 草刈機（乗車型自走式・リモコン式）の導入
- ② コンテナ苗・低密度植栽の導入
- ③ 複層林施業の導入

実施の状況と結果

① 根室地域林政連絡会議の開催

【実施内容】

時期：令和2年8月3日

令和3年3月11日・8月2日

場所：根室振興局別海合同庁舎

内容：森林整備・治山・路網整備事業、林業普及指導事業、効果的な造林作業への取組などについて、振興局と森林管理署との間で、情報共有や意見交換を行い、地域課題解決に向けた取組方針を検討。

【成果】

根室地域として、民国連携して進めていくべき課題などを共有した。



根室地域林政連絡会議

②ねむろ森林づくり交流会の開催

【実施内容】

時期：令和2年10月20日

場所：根室振興局別海合同庁舎（室内）
別海町一般民有林（現地）

内容：

○現地研修

- ・小型ハーベスタの活用方法について
- ・リモコン式草刈機の活用方法について

○室内研修

- ・全天球カメラ活用による林況調査について

【成果】

間伐や下刈り作業に係る効率的な手法について情報共有を行った。また、森林室と森林管理署のほか、民有林関係者の参加もあり、全天球カメラを活用した林況調査手法についても普及できた。



③ねむろ森林づくり交流会の開催

【実施内容】

時期：令和3年10月26日

場所：弟子屈町一般民有林
別海町町有林
別海町国有林

内容：

○現地研修

- ・リモコン式草刈機による下刈り作業とカラマツ苗への影響について
- ・格子状防風林の効果と施業方法について

【成果】

植栽方法の改善（コンテナ苗・低密度植栽）や機械化（地拵え・下刈り）に向けた実践的な取組事例について情報共有を行った。また、森林室と森林管理署のほか、民有林関係者の参加もあり、格子状防風林の効果をもとに、効率的な施業方法について意見交換を行うことができた。



今後の展開

別海町森林組合では、造林作業機械（乗車型・リモコン式）が導入され先進的な取組が行われており、地域における普及が期待されます。今後、下刈り作業の機械化に向けた地拵え方法の検討など、引き続き、造林作業の低コストや軽労化及び格子状防風林の効果的な施業に向けて、民国連携による推進を展開していきます。

発行：フォレスター活動民国連携調整会議事務局

北海道水産林務部森林環境局森林活用課
〒060-8588 北海道札幌市中央区北3条西6丁目
電話(011)204-5517(直通)

北海道森林管理局森林整備部技術普及課
〒064-8537 北海道札幌市中央区宮の森3条7丁目70番地
電話(011)622-5245(直通)